

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	一般社団法人 児遊人 塩屋北児童発達支援教室 ボニー			
○保護者評価実施期間	R7年 12月 8日 ~ R7年 12月 29日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23人	(回答者数)	19人
○従業者評価実施期間	R7年 12月 8日 ~ R7年 12月 29日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 1月 26日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	職員間の連携がとれている。	お子様の日々の成長や課題について、気になる点があればその都度職員間で共有し、当日勤務していない職員にも情報共有を行っている。	週に一度、職員会議を開き、お子様の様子の共有とお子様に合わせたプログラムの検討を行う。
2	お子様と保護者のニーズに沿った、支援計画を作成し、支援計画に沿って、子どもの特性に応じた専門性のある支援を提供できている。	支援計画にあがった支援目標については、子ども達自身も意識できるよう教室に掲示するだけでなく、随時課題の改善が出来ているかを職員と確認している。	お子様の支援目標に合わせてスタンプカードを作成し、お子様と一緒に支援目標の達成度を確認しながら支援を進める。
3	活動が固定化しないように、お子様に合わせた教材探しや研究が出来ている。	業務として月替わりで担当職員が教材研究を行い、職員間で共有し、お子様に合わせたプログラム作りや教材作りに努めている。	外部の言語聴覚士などが作成した質の高い教材を購入し、職員研修や教材研究を行い、更なる療育の質の向上を目指す。

	事業所の弱み（※）だと思われる事 ※事業所の課題や改善が必要だと思われる事	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	発語の遅れのある児童が多く、言語発達を促す支援が必要だが、口腔内トレーニングなどの専門的な支援が十分に出来ていなかつた。	言語発達に関する職員研修や教材作りは行っていたが、言語聴覚士などの言語発達の専門職がいなかつた為、言語発達を促す専門的支援が不十分であった。	来年度から言語聴覚士の採用を検討し、職員研修や専門的プログラム作りを行い、言語発達支援の質の向上に努める。
2	保護者交流・家族支援プログラムが実施できていない。	お子様が当事業所に通われていることをオープンにしていない保護者様もいるため行ってこなかつた。ニーズがあれば開催を検討したいと考え保護者アンケートを実施した結果、希望者がいなかつたため実施に至らなかつた。	本年度も保護者アンケートを実施する。 家族支援の一環として、今年度より始まった相談支援事業、訪問支援事業にて個別に対応できることも改めて周知していく。
3	外部評価・外部連携が不足している。	外部機関とのつながりが少なく、相談先が限定されている。外部研修や専門家との接点が少ないため、連携の機会が生まれにくい。	今年度から訪問支援事業が始まり、利用児が通う園との連携が取れてきた。子どもの園での生活の様子や、集団での様子、支援内容について共有できるようになり連携が強化されると考えている。 神戸市から事業所に派遣されるセラピストの方から専門的なアドバイスを受けることが出来るようになり、日々の支援や関わり方の参考にしている。